

# シネマズライフ

たかぎ りおん  
貴樹 諒音

2018年10月5日発行 第151号

http://p.booklog.jp/users/rion-takagi

【最近のこれはお見事!】

『止められるか、俺たちを』こちらは全員が止めてほしくないみたいです。

【最近のこれはまずいぞ!】

『シャルロット すさび』映画を見たら『すさび』の意味が分かるのだろうか?

## 映画の風景 日本の風景

※ 平安京羅城門 模型(京都駅) ※

— 平安京羅城門 模型(京都駅) —



「羅生門」という映画があった。こんな映画だ。

長い戦の為荒れ果てた京都・羅生門。森雨の中1人の男が雨宿りに駆け込んでくる。しかし、そこには困惑する僧侶と木こりがおり男に不思議な話を語る…

三日前、木こりが山に入ると男の死体を見つけた検非違使に報告。やがて検非違使の敷きの場に呼ばれた木こりは、男を殺した多喜丸・事件に間違った男の妻・そして巫女に憑依した殺された男がそれぞれ違う証言をして驚く。

多喜丸は刀を売ると言って男をだまし妻を凌辱する。ところが妻は「二人の男一人に取をせよ」という。多喜丸は正々堂々と戦ったと証言。

武士の妻は多喜丸に犯された自分を夫が殺害の目で見るといふ。一方、巫女に呼び出された武士の証言と目撃したという木こりの話は…

三者三様、それぞれの思惑で真実が曲げられていく。その上目撃者の話も真実かも知れない。芥川龍之介の『羅生門』が原作。『羅生門』では確かに羅生門はまったく見通せず、歩いていくなかでまったく見通せるかも知れない。

今、京都駅の羅生門(羅城門)の模型が建てられている。平安時代の人の心も優雅だった時代が推測できる。

平安末期の混乱と可憐な俳句・源朝野矢の政治。今の時代は可憐な時代だが、『羅生門』の時代に比べる。現代に生きる者は多くの情報をしっかりと見つめて後悔しない道を選びたい。

『羅生門』1950年日本 監督 脚本：黒澤明 脚本：橋本忍 原作：芥川龍之介 出演：三船敏郎 京マチ子 森雅之 志村喬 千秋実 上田吉二郎 本間文子 加東大介

映画は公開当時大映の永田社長に不評でその上あまりヒットしなかったが、イタリフィルム社長の尽力でヴェネツィア国際映画祭に出品、グランプリを受賞できた。

### コラム これからのネットと テレビの時代の件

先日、テレビで「テレビとネットどちらが必要?」をアンケートを取る番組をやっていた。この番組「全力!脱力タイムズ」はほとんどおちゃらけなので、その質問がネタで結局パネラーは全員テレビ局でお世話になっていてほとんど全員が「テレビ」を支持する。という展開。

しかし、この質問は実に奇妙だ。今は情報を探すとネット、ネットの方が速く詳しく知ることが出来る。これは凄いな。昔、何か詳しく知りたい時は図書館に行くか、百科事典をひも解くしかなかったが、今はパソコン・スマホでネットで

繋ぐとその気になれば図書館か百科事典で調べるより何倍も知識を得られる。

一方、最近ネットに繋がるテレビも多く、どちらが必要?というより正しくは番組を提供するテレビ局は必要なの?という時代に突入して、テレビでネットが見られるのが常識となるとテレビ局のあり方も徐々に変わってくるだろう。

しかし、テレビとアンテナを繋げればテレビが見られる。質沢な時代はいずれ無くなる時代になり、サービスに金を出せば、面白いドラマが有料でNetflixなどで見られる訳で、便利な世の中になったのかせちがらい世の中になったのか、もう老人の世代に入った私としては複雑なところだ。



↑ テレビ黎明期のテレビ広告 多くの人にとってあこがれでした。

Wikipediaを参考にさせていただきました。

★【最近のこれはお見事!】は見事な映画の題名の紹介、反して【最近のこれはまずいぞ!】は「これは、まずいぞ!」と思う題名を紹介しています。

on air!

CS・BS放送のオススメ映画を紹介します!

『探偵はBARにいる』

東映チャンネル

2011年 日本

監督:橋本一

出演:大泉洋 松田龍平 小雪 西田敏行 田口トモロヲ 波岡一喜  
有蘭芳記 竹下景子 石橋蓮司 松重豊 高嶋政伸

10月8日(月)23:30

10月20日(土)14:30

10月22日(月)20:00

北海道一の歓楽街、札幌・ススキノ。探偵である《俺》は、携帯を持たない主義でいつもバー「ケラーオオハタ」で依頼電話を待っている。

ある日、バーに「コンドウキョウコ」という女から電話があり、ある人物の行動を調べてほしいという簡単な仕事だ。早速、助手の北海道大学の大学院生・高田を連れて仕事をしたところ《俺》は怪しげな男達に捕まり、雪の中に生き埋めにされ「事件に関わるなよ!」と警告される。さて、結果を「コンドウキョウコ」に報告した後、死ぬような思いをさせられた《俺》は、勝手に事件を調べる事を決意。

しかし、事件の真相は深く《俺》と高田は危険な道にはまり込んでいく…。

『探偵はBARにいる』シリーズの第1作。《俺》を演じる大泉洋と高田演じる松田龍平は当たり役。ヒロインは美女で毎回暗い事情を背負っており、今回は小雪でいかにも!という感じ。

『メッセージ』

WOWOW

2016年 アメリカ

監督:デニ・ヴィルヌーヴ 原作:テッド・チャン

出演:エイミー・アダムス ジェレミー・レナー フォレスト・ウィテカー  
マイケル・スタールバーグ マーク・オブライエン

10月16日(火)17:00

10月29日(月)10:35

【シネマ】  
【シネマ】

突然!地球上の各地に宇宙船のような物が飛来。世界を震撼させる。

しばらくして、言語学者のルイーズは突然軍から宇宙人の言葉を解読してほしいと依頼される。アメリカ軍は飛来船を“殻”と呼び“殻”からは定期的に人間にコンタクトを取ろうとしているようだが、不思議な言語で会話ができないという。そこで“殻”に入ったルイーズは、大画面に現れる2体の彼らの表す言葉に驚く。足から墨のような物を出し絵を描いているのだ。ルイーズは物理学者のイアンと共に言語の解読に挑む。なんとか、意志の疎通ができるようになり、一番重要な質問をする。「何をしに地球にきたのか?」

「武器を持ってきた…」との意外な答えが…。この言葉に世界中が驚愕、特に中国は臨戦態勢に入り…。

何かを教えに来るなら、相手の言語ぐらい研究してね…とかいろいろ突っ込みたくなりますが、興味深い作品です。

CS・BSのオンエア時間は変更になる場合もありますので確認をお願いします。m( )m

★読んで頂いてありがとうございます。よろしかったらコメントで感想・お叱りお聞かせください。よろしくお願ひします! 貴樹諒音

★次回発行は10月19日です。今月の発行予定は第1・3金曜日です。m( )m

2000年 日本  
監督:小泉幹史 原作:山本陽五郎  
主演:藤澤和子

『雨あがる』

出演:寺尾聰 宮崎美子 仲代達矢 三船敏郎  
古岡秀隆 藤あづみ 井川比佐志 加藤雅之  
原田美枝子 船村淳郎



江戸時代。土砂降り雨が続き、多くの旅人達が川添の宿で足止めされてきた。武士で藩の士官を探していた三沢伊兵衛と妻、たよもそんな旅人の一人だ。長雨で宿の人々はイライラが続いていた。ある日、伊兵衛は妻に禁じられていた《賭試合》をやりに、その金で酒肴などを買い宿の人々に振る舞う。暗い状態だった宿は明るい雰囲気になった。翌日、雨があがり町に出た伊兵衛は、若侍同士のへ果し合いに遭遇。伊

兵衛は仲裁に入り、なんとか収めようとする。それを知った城主・永井和泉守重明は彼の采配に感心。伊兵衛を剣術指南役にと請うが、家老達の反対もあり、城内で御前試合をする事になる…。もう今の日本に無くなった日本人としての(憤み深さと謙虚さ)を見事に描いていて、また伊兵衛と妻・たよの愛情と信頼がうらやましいくらい素敵だ。《賭試合》が露見し仕官も拒否されるのだが、それに対するたよの言葉は見事。見栄ではなく人としての(誇り)がまだあった時代の話だ。

Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie

シネマズライフ151号

※ 発行人: 貴樹諒音 ※

発行日: 2018年10月5日

cinemaz-life@movie.nifty.jp

※ 告知ブログ ※

http://rion-mitugu.cocolog-nifty.com/mitayo/



皆様お休む大事に。かしこ

☆『編集後記』  
この号は、長年、当社の編集者として活躍してきた永田雅之氏が、海外映画の紹介を兼ねて、自費で英語字幕を付けて、見事な出来栄で、吹替も受けて、手紙をくれた。感謝の気持ちを込めて、この号に載せてあげたい。m( )m

画像はフォトライブラリーから使用にさせていただきました。m( )m

